

用語集

あ行

うみべ もり 海辺の森（初出P7）

阿賀野川河口域から新潟東港まで、延長約4kmの海岸線沿いに広がる飛砂防備保安林。林内にはキャンプ場や遊歩道が整備されている。

うんどう ふ きゅう すい しん い いん 運動普及推進委員（初出P21）

健康づくり・介護予防のための運動習慣の普及を図るボランティア活動を継続的に実施するため、市が実施する養成事業を修了した人。

エリアバス×タク（初出P19）

バス路線の確保・維持が困難になっていく恐れのある地域で、中型のバス車両とタクシー車両を組み合わせさせて運行し、運行の効率化や、多様なニーズへの対応、高齢者の移動の負担軽減を目指す新たな公共交通システム。

オオヒシクイ（初出P6）

カモ科の鳥。ユーラシア北部で繁殖、日本には冬鳥として飛来。オオヒシクイは、ヒシクイの亜種でヒシクイよりも一回り大きく、国の天然記念物に指定。北区の鳥（平成27(2015)年1月1日制定）。

か行

くるみ やまはいすい きじょう 胡桃山排水機場（初出P6）

福島潟の水をポンプにより阿賀野川へ流し、水害などから流域を守る治水施設。
昭和57(1982)年完成。

こうきょうようすいいき 公共用水域（初出P11）

水質汚濁防止法によって定められる、公共利用のための水域や水路のことをいう。河川、湖沼、港湾、沿岸海域、かんがい用水路など。ただし、下水道は除く。

こくさいきょてんこうわん 国際拠点港湾（初出P8）

国際海上貨物輸送網の拠点となる港湾として政令で定める港湾。（港湾法第2条第2項）

ござれやネット（初出P21）

「北区医療と介護のささえあいネット」の通称。
医療・福祉の専門職など多職種の連携・協働を図ることにより、誰もが在宅で暮らせる環境づくりおよび在宅医療・福祉の連携体制の推進を図ることを目的に活動している。

コミュニティ・スクール（初出P23）

学校ごとに保護者、地域住民、校長などの委員で構成され、育てたい子ども像や学校運営の基本方針を共有し、ともに子どもの成長を支える仕組みである、学校運営協議会を設置した学校。

さ行

ささ あ かいぎ 支え合いのしくみづくり会議（初出P21）

地域全体で高齢者を支えるため、地域で活動する団体や住民が集まり、地域課題の把握やその地域に必要な支え合いの仕組みなどについて話し合う会議。

そうごうがた ち いき

総合型地域スポーツクラブ（初出P24）

日常的に活動の拠点となる施設を中心に、幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせた活動を質の高い指導者のもとで行うことができる、地域住民で組織・運営される地域密着型のスポーツクラブ。新潟市内ではハピスカとよさかが唯一の同クラブ（令和4（2022）年現在）。

た行

だつたん そ か

脱炭素化（初出P15）

地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにしようという取り組み。

ち いき きょうせいしゃ かい

地域共生社会（初出P21）

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

ち いき ちゃ ま

地域の茶の間（初出P21）

子どもから高齢者、障がい者など誰もが気軽に集まり交流することができる地域の場所のこと。厚生労働省が進める「通いの場」と同様のもの。

ち いき ほうかつ

地域包括ケアシステム（初出P21）

住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができるように、「介護予防・生活支援・介護・医療・住まい」の5つの要素が連携しながら、地域全体で高齢者を支える仕組み。

デジタルトランスフォーメーション（DX）（初出P15）

デジタルによる変革。デジタル技術を活用して顧客や社会ニーズを基に製品、サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務、組織、プロセス、企業文化、風土を変革すること。

な行

に い ごうかわはいすい きじょう

新井郷川排水機場（初出P6）

河川の氾濫による被害を防ぐため、福島潟の水をポンプにより日本海にくみ出し流域の宅地や農地を洪水被害から守る施設。昭和36（1961）年に旧排水機場が完成。その後老朽化と機能低下などから全面改修し、平成7（1995）年に現在の排水機場が完成。

は行

ひ なん こうどうよう し えんしゃ

避難行動要支援者（初出P27）

高齢者、障がい者、乳幼児、外国人など災害時に自ら避難することが困難な人で、避難の支援を希望する人。

ふくしまがたほうすいる

福島潟放水路（初出P6）

福島潟の水位が高くなったとき、その水を直接日本海へ流し、周辺の水害を防ぐ人工水路。平成15（2003）年3月完成。

2つの大学（初出P17）

北区には新潟医療福祉大学、新潟食料農業大学が立地している。

新潟医療福祉大学（平成13（2001）年開学）は看護・医療・リハビリ・栄養・スポーツ・福祉・医療・ITを学ぶ6学部14学科の医療系総合大学。在籍者数約4,600人（令和4（2022）年現在）。

新潟食料農業大学（平成30（2018）年開学）は、食料と農業とビジネスを一体的に学ぶことができる新たな「食」の総合大学。在籍者数610人（令和4（2022）年現在）。

フレイル（初出P21）

加齢により心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態。「虚弱」を意味する英語「frailty」を語源として作られた言葉。多くの人々が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態に陥いると考えられている。

フレイルサポーター（初出P21）

フレイルチェックの運営ボランティア。市が実施する養成講座を受講した人。

ほ いく 保育コンシェルジュ（初出P22）

就学前の子どもの預け先について保護者の相談に応じる相談員。

ま行

みず し げん よう 水資源かん養（初出P16）

水田に利用される灌漑用水や雨水が時間をかけて地下に浸透し河川に還元され、流況が安定的に保たれることや、浸透した水が流域の地下水となり、良質な水として活用されること。

ら行

じょうやくしつちじちたいにんしゅうせいど ラムサール条約湿地自治体認証制度（初出P13）

ラムサール条約の決議に基づき、湿地の保全・再生、管理への地域関係者の参加、普及啓発、環境教育などの推進に関する国際基準を満たす自治体に対して認証を行うもの。新潟市、鹿児島県出水市が国内初の認証となった。

北区区ビジョンまちづくり計画

令和5年3月 発行

【発行】

新潟市北区役所 地域総務課

〒950-3393 新潟市北区東栄町1丁目1番14号

電話 025-387-1000

<http://www.city.niigata.lg.jp/kita/>

E-mail: chiikisomu.n@city.niigata.lg.jp